

新除草・調節剤

オエート5%を含む粒剤である。

本剤は米国ストッファー・ケミカル社で開発され、ノビエ・水稻間の選択性の非常に大きな土壌処理型除草剤である。又、リン系及びカーバメイト系殺虫剤との同時或いは近接散布でも薬害は認められない。

毒性は、急性経口毒性 $LD_{50} = 795 \text{ mg/Kg}$ (マウス)、魚毒性は TLM 48時間後 30ppm (コイ) で、実用上問題がない。

使用方法：稚苗機械移植：移植前3日～移植後5日に10アール当たり製品5～6Kgを均一散布する。尚体系の前処理剤として使用する。

保温折衷苗代では、播種覆土後10アール当たり製品3Kg～4Kgを均一散布する。尚イネ科優占圃場を主な対象とする。

壤の種類や温度の変化に対しても安定した効果が得られている。

人畜毒性は、マウスで $LD_{50} = 4,600 \text{ mg/Kg}$ であり、魚毒性はコイで48時間 TLM = 176ppm である。

使用方法：G-315粒剤は、普通期栽培のノビエ1.5葉期まで(移植後8～10日)、10a当たり製品量3Kgを均一に散布する。G-315肥料は、植代前に10アール当たり製品量で30Kgを均平後、均一に散布する。

使用上の注意：発生後のコナギに対しては効果が劣り、マツパイを除く多年生雑草には効果がない。深水処理では、茎葉に褐変が発生するから、著るしい深水をさけること。また、漏水田では使用しないこと。

G-315除草剤

(取扱メーカー) 日産化学工業株式会社
対象作物：移植水稻

性状・作用特性：本剤は、2-ターシャリブチル-4-(2,4-ジクロル-5-イソプロピルオキシフェニル)-5-オキソ-1,3,4-オキサジアゾリンを主成分とする除草剤で、有効成分はつぎのとおりである。

G-315肥料(A)：G-315を0.35%、窒素12%、磷酸15%、加里15%、

G-315粒剤：G-315を4%、

本剤は、根部および茎葉から吸収移行して効果を発揮する非ホルモン型除草剤であり、根部吸収選択性により、土壌混和処理の効果が大きく、移植後の土壌兼雑草処理効果も大である。土壌中の残効性は極長で、移行性も小さく、土